

## 社員の知識と自信を高め、実戦力ある人材を育てる

### 山二システムサービス株式会社 (秋田県秋田市)

#### ■安心と信頼のサービスを提供する

システム開発およびシステム保守業務を行う秋田県秋田市の山二システムサービス株式会社は、昨年、創立40周年を迎えた。同社は、株式会社山二が県内の民間企業に先駆けて導入していた汎用コンピュータの有効活用を図るために、1976（昭和51）年に電算部門から「東北メディカルインフォメーションサービス株式会社」として分社独立し、県内でも先陣を切って情報産業分野へと進出した。1986（昭和61）年には「株式会社トミスシステムズ」、2011（平成23）年には「山二システムサービス株式会社」へと2度の称号変更を経ながら、業務の内容を医療分野から自治体などの公共分野、法人の各種業務分野へと拡大させてきた。

目まぐるしく変化する業界にあって、長きに渡りユーザーの信頼を得、さらなる拡大を目指す同社の人材育成への取組について、専務取締役・大野慎氏、取締役経営企画本部長・加藤統義氏のお二人にお話をうかがった。



代表取締役社長  
西村紀一郎氏

#### ■ニーズの変化 ～過渡期から定着期へ

会社を設立した当時は、システムの仕事をしている企業は県内にはほとんどなかったため、当社が最初に取り組んだ医療事務の現場においても需要は大きいものがあつた。客先では大いに歓迎され、現場ではお客さまとの二人三脚でシステムの構築から立ち上げ、メンテナンスまでを行っていた。大野専務は「2年に1度の医療費の法改正の時には、客先に出向いてプログラムを見ながら法解釈を巡って論戦を繰り広げたものだ。そうした中で知識や技術を磨いていった。当時はお客さまに育てていただいた」と振

り返る。

しかしシステム化が定着してくると、一転して、最初から高度な知識や技術を備えていることが求められるようになった。システムの導入によって客先では業務内容に関する細かな知識が不要となった一方、システムを作る側には、計算の仕組みを知るだけでなく、業務全体の流れを理解し、客先の要望をくみ取り提案することが求められるようになったからだ。

#### ■育てることで、育つ

そこで当社では、専門的な部分について学ぶ仕組みを社内に設けた。一つは、ベテラン社員と若手社員が組んで客先を訪問すること。ベテラン社員の持つ知識や技術を若手社員へと引き継ぐ場となり、当社としての全体的なスキルアップに効果が出ている。また、現場を観察し、課題に気づき、対策を考えるという課題発見プロセスの学びの場にもなっている。客先訪問の際には、どういった視点で現場を観察すればよいか、また、課題があれば、改善策としてどのようなことが考えられるかについて、ベテラン社員と若手が積極的に意見交換を行うなど、実践的な教育の場になっている。

もう一つの取組として、各部門において、社員が先生・生徒となった勉強会を定期的に行っている。生徒になる社員については当然のことながら、先生になる社員にとっても、人に教えるために学び直しをする、あるいは教え



専務取締役  
大野 慎氏



取締役経営企画本部長  
加藤 統義氏

ることを通じて学ぶという機会となり、双方にとって知識や技術を身につける場となっている。

#### ■資格取得をバックアップ

当社では、社員の資格取得を積極的に奨励している。社員には年度初めに資格取得および自己啓発の目標を自己申告させ、目標を明確にさせている。資格を取得できれば、資格に応じた報奨金や資格手当を得ることができる制度となっている。

社員が資格を取得した際には朝礼の場で結果を披露することとしており、特に難しい資格を取得した社員がいた場合には、本人から勉強の仕方や時間の使い方などについて発表をしてもらうことにしている。聞く側にとっては勉強方法の参考や刺激となり、発表する側の社員にとっては、自分の経験を大勢に伝えることで、プレゼンテーション能力を鍛える場になっている。



本社 社屋

#### ■企画提案力を磨く

当社では、今後はますます企画提案力が重要になると考えている。大野専務は「企画提案を実現するためには、コミュニケーション能力、聞く力、話す力、技術的な裏付けなどあらゆる能力が必要となる。一つ一つが簡単に身につくようなものではないが、大事に育てていきたい」という。

では具体的にはどのようにしているのか。加藤取締役は「日々の業務の中に、自分の思ったことを言葉にして伝えるという訓練を組み込んでいる」という。前述の各部門における勉強会や資格取得に関する発表のほか、「朝礼でのスピーチや外部研修の成果報告なども、限られた時間の中で考えをまとめ伝えるよい練習の場となっている」という。また、社員の親睦を深めるという目的のもと社員で組織される

“共済会”の活動も、良い効果を生んでいる。社内のコミュニケーションの円滑化につながるだけではなく、各種催しの企画・立案・実行は、実際の仕事における企画提案力に通じるものであるからだ。

「企画提案力を磨く、コミュニケーション能力を鍛える」という問題意識を持つことにより、日常の業務のあらゆる場面で成果が出てきている。

#### ■社員の豊かな生活の実現に向けて

当社の経営方針の中には「わが社に所属するすべての人々の豊かな生活を実現する」との一節がある。大野専務も「社員に余裕がなければ、お客さまのことを十分に考えることはできない。社員が時間的にも精神的にも豊かな生活をおくるということが、顧客満足度を高めるための一番の近道である」と語る。

社員の働きやすさを実現するために、当社では週に1度のノー残業デーの実施、時間単位で取得できる看護休暇の導入などを行っている。「子育て世代の男性社員も時間休暇をうまく活用し、育児にも率先して参加している」という。

現在、問題意識を持って取り組んでいるのは、働く時間の使い方についての意識改革である。不規則になりがちな業種であるからこそ、時間を有効に使い、社員の生活の基盤となる家庭と仕事との両立が確保できるように、会社としても積極的に取り組んでいる。



創立40周年記念 集合写真

(フィデア総合研究所 佐藤美里)

#### 山二システムサービス株式会社

代表取締役社長 西村紀一郎

本社：秋田県秋田市仁井田新田2-16-13

設立：1976（昭和51）年1月27日

業種：情報通信業 従業員数：51名